

様式第2号

視察研修先	長野県小諸市議会	氏名	柏倉 信一
視察研修項目	有害鳥獣商品化施設整備事業について		
<p>長野県の東部に位置する小諸市、坂の町として知られる。千曲川沿いの標高600mから高峰高原の2,000mまでの標高差は、高地トレーニングの適地として「トップアスリート」からも好評のようです。城下町よりも低い位置にあることから「穴城」と呼ばれる「小諸城」は全国でも珍しい城として有名です。</p> <p>この度の視察項目である野生鳥獣商品化事業は、それまで猟友会に委託していた野生鳥獣対策の問題解決に端を発している。問題点としては、猟友会の会員の高齢化や狩猟への不参加、イノシシばかり捕獲して他の加害獣の捕獲を行わない、縄張り意識が強くワナを仕掛ける場所の調整が必要、法律順守の意識が希薄であることなどが挙げられた。市としても問題があることは把握していたが、他に依頼する相手がいないことから猟友会に対し強く言えない状態であった。</p> <p>こうした課題を打開するため、平成23年に専門知識を有した人材の雇用に踏み切った。そして平成28年に猟友会依存型の鳥獣対策を変更し、「小諸市鳥獣野生対策実施隊」を編成。統括責任者に農林課長、実施隊隊長に専門員を配置し捕獲部に狩猟免許をもった猟友会員を配置したが、猟友会員としてではなく、狩猟免許を持った個人として任命した。</p> <p>実施隊員になることで、特別職公務員としての身分を保証、怪我をした場合の公務災害の保証を受けられる等の5つのメリットが示された。また、報償費についても、変更前は見回り出勤日数あたり400円/1人、二ホンシカ・イノシシ1頭あたり10,000円であったものを、報償費年間1人1,000円、二ホンシカ・イノシシ1頭あたり18,000円に変更。</p> <p>行政主体の鳥獣対策に切り替えた結果、個体処分費が増加した。そこで駆除個体を商品化し処理費の削減を図る取り組みとなった。衛星管理の行き届いた加工施設。科学的根拠に基づいたシカ肉ペットフードの開発。商品が作られた背景のPRに取り組み、地方創成交付金5,000万円、市単独予算1,000万円を投入したが、周辺自治体3市3町が合体した取り組みとなり、令和4年度末で、利用頭数1370頭、事業売上で37,182,285円、事業利益2,715,612円までになった。様々なハードルをクリアし見事に費用対効果を上げたすばらしい施策となった。鳥獣対策という大変な取り組みをまさに逆転の発想から、ピンチをチャンスに変えた。</p>			

様式第2号

視察研修先	群馬県高崎市議会	氏名	柏倉 信一
視察研修項目	農業者支援のための各種補助制度について		
<p>東京の北西部に位置する高崎市は、中山道の街道筋として古くから関東と甲信越を結ぶ交通の要衝として発展してきた街である。平成18年に5町村と、平成21年に1町と合併し、人口は37万人を超え群馬県最大の都市となった。平成23年4月には中核市に移行し、さらなる発展を続けているようです。ヤマダ電機やヨドバシカメラなどの大手企業が進出、街は活気を帯びておりビル建設が相次いでいる。</p> <p>こうした中、合併の影響もあり、農地も平野部から標高800mの山間部まであり、地域ごとに多彩な農畜産物が生産されている。平野部では米、麦、野菜などが中心、丘陵地から山間部にかけては、畜産や果樹、キノコ栽培などが行われ、地域の特色を生かした農業が行われている。どちらかと言えば商業・工業の街ながら、市長の肝いりで農業政策も力を入れているとのこと。農畜産物のブランド化を図るため、令和元年度から広告大手の「博報堂」と連携して幅広い高崎の農業を紹介、農業の関心を高め販路の拡大に繋げている。また、youtube配信を行って高崎農業のPRに取り組む等、農業をテーマにした番組を制作したりして頑張っている。</p> <p>農業者の所得向上に資する対策として、平成27年度から始まった「農業者新規創造活動支援事業」は、これまでの補助制度を再構築して地域資源を活かした6次産業化やブランド化などを図る総合的な補助制度を創設。平成27年度に総額1億円を予算処置、農業者から大変好評を得ているようだ。平成28年度以降は5千万増額、1億5千万となっている。</p> <p>支援メニュー</p> <p>6次産業化推進事業（平成27年度～）</p> <p>生産から加工、流通・販売まで取り組む活動費や商工業者と連携した商品開発に関する経費を支援</p> <p>補助内容</p> <p>ハード事業、4/5以内、上限1,000万。 ソフト事業：定額500万※ソフト事業は平成30年度より上限を500万から200万に引き下げ</p> <p>この他にも、新規就農者支援・市独自の取り組みとして災害時における見舞金事業や、令和2年7月発生のカビアカツヤカミキリ対策等様々な取り組みを行っているが、特徴としていずれの事業にも申請に必要な書類の簡素化をしていること。様々な事業について説明を頂いた。ただ財政規模の違いや基幹産業が農業という我が寒河江市とはいろんな意味で農業に対する視点が少し違う気がするが、いずれにせよ有意義な視察となったことは間違いない。ありがとうございました。</p>			

様式第2号

視察研修先	群馬県館林市議会	氏名	柏倉 信一
視察研修項目	つつじが岡公園管理事業について		
<p>館林市は、群馬県の南東部に位置し「鶴舞う形」と言われちょうど鶴の頭の部分にあたり、関東地方のほぼ中央部に位置している。首都東京浅草まで約70キロメートルと最も近く、交流は密接であり鉄道や道路などの地理的条件に恵まれている。昭和の大合併により、1町7か村が合併し現在の館林が誕生したとのこと。人口74,234人(令和5年4月1日現在)の街。</p> <p>我々が視察させていただいた「つつじが岡公園」は400年以上前から「つつじが崎」と呼ばれ古くからつつじが自生していた歴史のある公園である。推定樹齢800年のヤマツツジを始めキリシマツツジ・オオヤマツツジ・クルメツツジのほか、遅咲きのリュウキュウツツジといった系統の100余品種・約1万株のつつじが栽培され、つつじまつり期間中(例年4月15日~5月15日に開催、今年は4月10日~5月10日まで開催とのこと)は多くの観光客等で賑わっている。そのほか、園内にある「つつじ映像学習館」では、年間を通じて満開のつつじや日本遺産「里沼」と立体的な3D映像に、風やミスト等を加えた4Dシアターを楽しむことができる立派な施設が整備されていた。</p> <p>供用面積は38,78ha(7区にまたがる公園)で管理者は市及び県。つつじまつり期間中のみ有料区域を設定し有料公園となっているとのこと。(入園料 見頃期間:630円、見頃前後:310円、シアター入館料は通年であり高校生以上500円)</p> <p>令和5年度予算:106,368千円</p> <p>我が寒河江市の持つ長岡山のつつじ公園とは、取り巻く環境、使用目的等、維持管理の目的も違っているので、単純に比較できるものではないと思うが、公園全体が平場になっている点、また冬季間の雪の心配がないこと、年間通じて観光客を集客が可能な点などが本市と比べ利点として考えられると思う。</p> <p>世界に誇る「日本一のつつじ公園」というだけあって、この公園単独で観光誘客を図ろうとの意気込みを感じるが、経済効果「費用対効果」を踏まえるとつつじが岡公園をメインにした複合的観光施設という方向性を取りながら、物販・飲食・宿泊施設等近隣との連携も視野に活用して考えるともっと面白いのではと考えた。</p> <p>本市のつつじ公園の持ち味、環境やこの度の視察で学んだことを十分踏まえ、今後の活用方法を検討していきたい。</p>			